



●10月28日(土)に、名向小学校創立50周年記念式典が行われました。

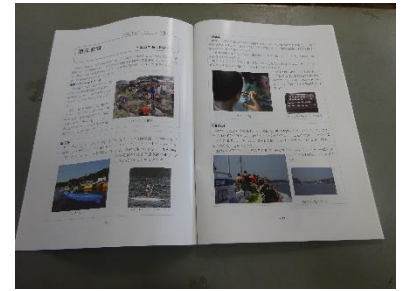
全校児童が参加した音楽劇「ちびっこカムの冒険」の中で、1,2年生がカニになって踊り、3,4年生は、魚の絵を書き、魚に扮して参加しました。そして、5年生は小網代の森についての発表を、6年生



は真珠の養殖についての取り組みの発表を行うなど、海洋教育の広がりを感じさせるものでした。

最後に、6年生の代表が、「海について学ぶことで、三浦の自然の素晴らしさを知り、その自然を守るために努力している人々がいることを知りました。これからは、私たちがバトンをつないで、環境を守っていきたいと思います」と締めくくりました。

50年誌にも、海洋教育についての特集のページが掲載されていました。



●10月27日(金)に、読売KODOMO新聞の記者とカメラマンが、旭小学校の海洋学習の取材にやってきました。

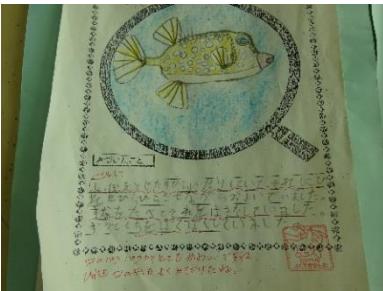
昼休みの、飼育委員によるエサやりのようす取材した後、2年生の海洋学習を見学しました。



2年生は、校内のあちこちの水槽に分かれて、スケッチをします。水槽に顔を近づけて、真剣に取り組みました。

教室に帰ってきた子どもたちは、口々に「今日うまくかけた」「見て、見て」とうれしそうです。スケッチも、すでに5枚を超え、観察の視点もだんだん鋭くなってきているようです。

記者の方たちも、2時間以上にわたって取材し、驚きと感動の面持ちで帰りました。



●11月1日、横浜そごうの新都市ホールで、生活科・総合的な学習の時間の全国大会が行われ、市内から3校がポスターで参加しました。岬陽小は、マグロの学習について、名向小は真珠の養殖の学習について、剣崎小はアマモの学習につい

て、ポスターを作成しました。

多くの参加者が、それぞれの研究に対して質問し、担当者が丁寧に解説していました。三浦市の海洋教育について、全国からの参加者にアピールすることができたと思います。3校の担当の先生方、当日お手伝いいただいた海洋教育部会の先生方、大変お疲れさまでした。



## 海洋教育教員研修プログラム フォローアップ研修の報告

初声小学校 石渡慎平

三浦市で海洋教育が本格的に始まり数年が経ちました。毎年、各校で先生方が実践を積み上げています。海洋教育は、子どもたちが「海に親しむ」ことを目的に行われており、三浦市だけでなく全国各地の学校で授業実践が展開されています。今年度より東京大学が主催で開催されている研修会に参加させていただくことになりました。その研修会の中で、全国各地の学校の授業実践や東京大学の先生方が考える海洋教育について学んできたことを報告します。



### 実践報告から分かったこと



研修会では、全国各地の学校で行われている実践の紹介がありました。その地域の特徴を活かした教材づくりが学校単位や市、町単位で行われていました。同じ班になった先生方の実践を聞いたり、取り組んだ良さや課題点を挙げたりし、カテゴリー分けをしながら共通点を見つけていきました。本講義の中で使われていた用語で実践の中で見られた良い部分、GP（グットプラクティス）の共有をしました。また、各地域での現状や課題についても話を聞くことができ、有益な時間になりました。

### 東京大学の先生方からの視点

東京大学海洋アライアンスの先生が講義をされた中に、私たちが海洋教育を考えるうえで、どの地域でも考えなければならないと思ったものがありました。その先生は、「ウミガメの放流」や「魚の放流」を行った実践例に取り上げられ、話をされました。魚の放流については、その地域に本来いない魚を放流する取り組みを行ったことがあったそうです。「宮城の川にいたサケを取ってきて、東京の川に放流したところで、東京の川にサケが帰ってくるのでしょうか？」という本来いないものをそこに連れてくるのはどうなのかという話でした。本来、その地域にいる生物でないものがあることで、生態系が変わってしまう。そのことを無視して勉強だからと進めてしまっているのだろうか？そのような問いかけを持ったお話でした。



海洋教育を実践していき、新たに実践例を生み出していくのですが、その中で、「本来、そこにある生態系なのか」という視点も持ちつつ、子どもたちに何を学ばせたいのか考えていく必要があるだろうと感じました。

**海洋教育についてのお問い合わせは、本研究所まで（046-854-9443）**